

地域活動団体との協働で広がる

食支援と新たなつながりの輪

コロナ禍でこの3年間、感染拡大防止の観点から子ども食堂などの会食支援の多くが中止を余儀なくされました。一方で、新たな食の支援が展開され、地域のネットワークを生かした施設や企業などとの連携に広がりも見られます。今回は2社協の取り組みを紹介します。



●吹田市社会福祉協議会

未来がきらり☆ 吹田学生応援プロジェクト

吹田市社会福祉協議会(以下、市社協)では、令和2(2020)年から、大阪よどがわ市民生活協同組合(以下、生協)と吹田市社会福祉協議会施設連絡会(以下、連絡会)との連携のもと、コロナ禍で困っている学生を食で支援する、未来がきらり☆吹田学生応援プロジェクトをはじめました。
プロジェクトの背景には、メディアで報道されていた学生の貧困がありました。連絡会から「何か協力できることはないか」と声があがり、三者連携の体制が構築されました。
年3回、市内在住・在学の大学生を対象に3~5日分ほどの食品に、メッセージをつけて配布しています。
学生からは、「メッセージがうれしかった」、「簡単に食べられるものが多く、とても助かっている」などの声があり、直筆の手紙で感謝の思いを伝えてくれたこともありました。

それぞれの強みを生かして

提供する食品は、生協の組合員や連絡会の関係者にフードドライブ(①)で募り、食品の保管、仕分け、梱包の作業を経て学生に配布されますが、当初

●高石市社会福祉協議会

大阪信用金庫と協働した食支援の取り組み

高石市社会福祉協議会(以下、市社協)が大阪信用金庫(以下、大信)と連携してはじめた事業がフードバンク(②)です。市社協では、平成29(2017)年に国の地域推進事業のモデル市となったことを機に、地域連携の強化に力を入れています。そのひとつとして実施する企業訪問を通じて、大信との関係が構築されました。大信は、自主創造による「地域課題の解決」の理念のもと、以前から銀行内での寄付BOXの設置や健康相談会への会場提供など、地域に根差した活動をしていました。
「地域全体でつながる」という思いを共有し、令和4(2022)年12月から協働した食支援の取り組みがはじまりました。

利用者の笑顔がやりに

大信が集めた食品を市社協が適時受け取り、広報紙を通じて住民に周知します。また、福祉施設や子ども食堂を運営する団体を通じて、必要な方に届けています。
取り組みを開始した当初から、市社協と子ども食堂を運営する複数の団体はLINEグループを作成し、SNS

課題だったのが、配布場所です。そこで、市社協が連絡会に協力依頼し、市内大学からアクセスの良い施設に協力を募りました。

市社協は、生協や連絡会との連絡調整や学生への周知を行います。生協は活動源となる助成金情報や作業場所などの提供、連絡会は配布場所の提供と相談窓口としての機能を担うなど、三者それぞれの強みを生かしあうことで実現した取り組みといえます。
また、市社協と生協は以前から地域福祉活動や、生活困窮者支援のために物資を提供する覚書を締結していたこともあり、今回の連携につながりました。

学生が輝ける場づくりを

生協職員の馬場 徳二郎さんは、「市社協・連絡会と連携することで今回の支援ができた。生協だけでは成し得なかったことだと思つ。今後も継続していきたい」と話します。



生協の馬場 徳二郎さん(左)と市社協の夏目 茜さん(右)

を積極的に活用しています。市社協からは食品の情報と配布日時を発信し、団体は受け取りの可否について回答するなど、随時情報を共有することができま。

生活困窮など、さまざまな背景を抱え食支援を申し込んだ住民は、市社協で食品を受け取ります。そこで、職員との会話が生まれ、より良い関係づくりから支援につながっています。
「来られた方の笑顔を見たときに、はじめてよかつたと感じる」と話すのは、市社協職員の楠本 夢奈さん。

同じく市社協職員の松谷 伸幸さんは、「ニーズに応えるため、活動規模を広げていきたい」と、今後の意気込みを語ります。



市社協から笑顔で受け取る子ども食堂団体



学生のこれからが「きらり☆」と明るくなることを願って

「学生が支援を受けるだけでなく、地域とつながるきっかけにしていきたい」と、今後を考えています。
今回の取り組みは食の支援だけが目的ではなく、学生が地域を知り、主体となって活躍していくきっかけとなることをめざしています。
「地域とつながりたい」、「学生を支援したい」。それぞれの思いが集まり実現した取り組みに注目です。



市社協職員のみなさん 左から松谷 伸幸さん、楠本 夢奈さん、馬渡 浩二さん

地域全体でのつながりを

市社協では、企業訪問を通じて、大信だけでなくスーパーマーケットとも連携し、食支援を行っています。
企業訪問は、地域連携の推進を目的とし、市社協が市内企業に協働を呼びかける取り組みです。令和2(2020)年から現在まで、市内のスーパーマーケットやカラオケ店など、あらゆる企業を訪問。その数は約200社にものぼります。
「福祉の枠にとらわれず地域全体で助けあっていく必要がある。食支援がきっかけとなり、地域協働の輪が広がればうれしい」と語るのは市社協職員 馬渡 浩二さん。

「新たな連携づくり」をキーワードに、暮らしを支える存在になりたい。市社協の挑戦はこれからもつづきます。

▲市社協・生協・連絡会の情報はこちらから!▲

QRコード: 市社協Twitter, 生協Instagram, 連絡会ブログ

①フードドライブ
家庭で使い切れない予備の食品を寄付する活動

②フードバンク
印字ミスや賞味期限が近いなどといった食品を企業などが寄付する活動



カップ麺などの保存食や調味料などが入っています!

今回紹介した2社協だけでなく、地域ごとの特性を生かした多様な食支援のあり方が模索されています。
食支援に限らず、地域の企業や団体、施設同士が連携することで活動の幅が何倍にも広がります。互いの強みを生かし、支えあう地域連携の仕組みが今後ますます重要になります。